

第 一 部

Ⅰ. 大学全体に関する事項

<< 前のページへ

第一部の質問へ >>

途中保存する

質問1

文部科学省が提案する以下の大学の7つの機能分化において、貴学が目指しているものとして最も当てはまるもの一つを選んでください。

選択項目

-- 選択してください --

-- 選択してください --

1. 世界的研究・教育拠点

2. 高度専門職業人養成

3. 幅広い職業人養成

4. 総合的教養教育

5. 特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究

6. 地域の生涯学習機会の拠点

7. 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）



質問2

貴学の全学的な中・長期計画や戦略プランには国際的な、あるいはグローバルな目標と活動が記述されていますか。以下の選択肢から当てはまるもの一つを選んでください。

選択項目
6. 収容定員
– 選択してください –
1. 学部数
2. 入学定員
3. 収容定員
4. 研究科数
5. 入学定員
6. 収容定員

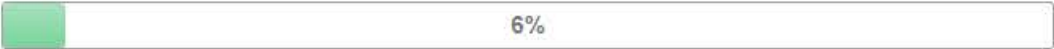
第 一 部

II . 国際化に関する事項

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する



質問3

貴学の国際化の目的として、以下のA～Eについて優先度の高い順番に回答欄のリストボックスから記号を選択してください。

順位	選択項目
1位	-- 選択してください --
2位	-- 選択してください --
3位	1. 世界的研究・教育拠点
4位	2. 高度専門職業人養成
5位	3. 幅広い職業人養成
	4. 総合的教養教育
	5. 特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究
	6. 地域の生涯学習機会の拠点
	7. 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する



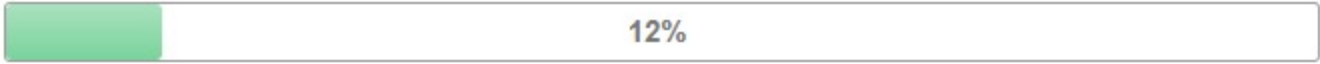
質問4

貴学の国際化戦略として、以下のA～Dから該当するものを3つまで選び、優先度の高い順番に回答欄のリストボックスから記号を選択してください。

順位	選択項目
1位	-- 選択してください --
2位	-- 選択してください --
3位	A: ワールドクラスの大学（世界的エリート大学）を目指す競争型国際化戦略 B: 海外における大学の評判・知名度向上のための教育や研究における協力・ネットワーク型国際化戦略 C: 国内における大学の評判・知名度向上(優秀な国内学生の獲得)手段としての国際化戦略 D: 大学の生き残りをかけた（大学存続または大学の競争力維持のために留学生獲得が不可欠）国際化戦略 E: 大学のある地域や社会の持続可能な発展や創生を支えるための国際化戦略

<< 前の質問へ

次の質問へ >>



質問5

大学の国際化に関する貴学の実施状況について、当てはまるものにチェックを入れてください。

	全学部で実施	一部の学部で 実施	実施していない
① 英語による授業科目の提供	☐	☐	☐
② 英語による学位課程の提供	☐	☐	☐
③ 外国人留学生に対するメンター制度（注1）、バディ制度（注2）、チューター制度（注3）のようなピア・サポート	☐	☐	☐
④ 外国人留学生に対する経済的支援（授業料減免、奨学金等）	☐	☐	☐
⑤ 外国人留学生に対する就職支援 注1	☐	☐	☐
⑥ 国際ダブル・ディグリー・プログラム(注4)	☐	☐	☐
⑦ 国際ジョイント・ディグリー・プログラム（注5）	☐	☐	☐
⑧ 海外インターンシップ・プログラム	☐	☐	☐
⑨ 教育活動や卒業要件に、外部の語学検定試験（TOEFL、TOEIC、IELTS等）を活用 注2	☐	☐	☐
⑩ 教員・研究者に対する英語による論文執筆の支援（翻訳・校閲支援等）	☐	☐	☐
⑪ 大学院生に対する海外の学会での発表や出版の支援（旅費・校間費支援等）	☐	☐	☐
⑫ 国内学生の海外留学・研修に対する経済的支援（奨学金等）	☐	☐	☐
⑬ 留学生と国内学生が混住する国際寮	☐	☐	☐
⑭ 留学生同窓会の組織化と支援	☐	☐	☐
⑮ 外国人留学生や教員と地域住民の交流・共生を促進する活動	☐	☐	☐

注1

日本人学生が留学生の良き相談相手（メンター）として、学業やクラブ活動についての助言、銀行・郵便局での手続きや買い物など生活面での支援などを行い、留学生が円滑に日本での留学生活を送れるようサポートする制度。

注2

留学生が勉学、キャンパス生活、生活習慣などについて困難を抱えている際、日本人学生が学友（バディ）として相談に乗る、留学生が日本での生活を有意義に過ごせるようサポートをするボランティア制度。

注3

留学生に対して、日本人学生がチューターとして個別に課外指導を行い、留学生の学習・研究効果の向上を図ることを目的とする支援制度。

注4

日本と外国の大学が、教育課程の実施や単位互換等について協議し、卒業要件を満たした学生に対し、双方の大学がそれぞれの学位を授与するプログラム。

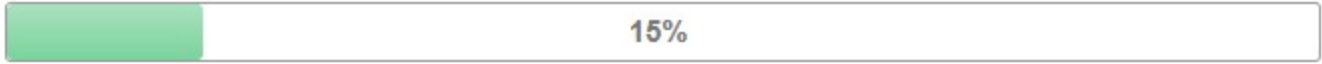
注5

日本と外国の連携する大学間で開設された共同の教育課程を修了した際に、複数の大学が共同で単一の学位を授与するプログラム。

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する



質問6

貴学において全学レベルの国際教育交流（外国人留学生、国内学生の海外留学・研修、大学間交流等）を所管する組織（部課、センター）に関する以下の質問にご回答ください。（①から③は2024年5月1日現在、④から⑧は2024年4月から2025年3月）

①国際教育交流担当専任教員数（注1）		（人）
②国際教育交流担当職員数		（人）
③海外協定大学数（全学と学部・部局間協定の合計）		（校）

	派遣	受入れ
④交換留学生数（学部）（注2）	（人）	（人）
⑤交換留学生数（大学院）（注2）	（人）	（人）
⑥海外インターンシップ数（学部）（注2）	（人）	（人）
⑦海外インターンシップ数（大学院）（注2）	（人）	

注1 「国際教育交流関係を担当することで採用された専任教員」を指す。国際交流委員会、留学生委員会等の委員は含まない。

注2 単位取得・認定を伴うものに限る。

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する

第一部

III. 管理運営に関する情報

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する



質問7

貴学の理事長について、いずれか該当する方を選んでください。
(私立大学法人のみ回答ください。2024年5月1日現在)

☐

① 現在の理事長は、学園の創設者またはその親族である。

☐

② 上記以外である。

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する

質問8

貴学の理事会運営、学長選任の方法に関する以下の質問にご回答ください（2024年4月から2025年3月）。

①クラス担当制	(回)
②入学前教育	☐あり ☐なし
③シラバス・チェック (注1) (いずれか一つを選択)	☐選挙（教員のみ） ☐選挙（教職員） ☐理事会の選任 ☐理事長の指名 ☐学長選出委員会及びこれに類する機関 ☐その他

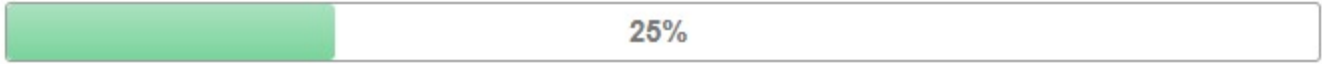
注1

 規則と実態が一致していない場合には、実態に則した選択肢をお選びください。

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する



質問9

貴学の全学的な中長期計画策定、評価、I R（Institutional Research）を担当する組織に関する以下の質問にご回答ください。（2024年5月1日現在）。

① 全学的な中長期計画策定を専門に担当する部署がありますか（どちらかを選択）	☐ あり ☐ なし
② 当該中長期計画策定に担当者数（注1）	教員 (人)
	職員 (人)
③ 全学的な評価を専門に担当する部署がありますか（どちらかを選択）	☐ あり ☐ なし
④ 当該評価担当者数（注2）	教員 (人)
	職員 (人)
⑤ I Rを専門に担当する部署がありますか（どちらかを選択）	☐ あり ☐ なし
⑥ 当該I R担当者数（注3）	教員 (人)
	職員 (人)

注1

計画策定担当者とは、大学全体の中長期計画等策定を主として担当する教員・事務職員とします。
例えば「経営企画室」のように計画策定を主たる業務として担当する部署があれば、その構成人数を記入してください。
そのような担当部署がない場合は、主たる業務として計画策定を担当している教員・事務職員の人数をご記入ください。

注2

評価担当者とは、自己点検評価や第三者評価を主として担当する教員・事務職員とします。例えば「○○評価室」のように評価を主たる業務として担当する部署があれば、その構成人数を記入してください。
そのような担当部署がない場合は、主たる業務として評価を担当している教員・事務職員の人数をご記入ください。

注3

I R担当者とは、教学や経営に関する情報収集・分析等を主として担当する教員・事務職員とします。例えば「I R推進室」のようにI Rを主たる業務として担当する部署があれば、その構成人数を記入してください。
そのような担当部署がない場合は、主たる業務としてI Rを担当している教員・事務職員の人数をご記入ください。

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する

質問10

【問10-1】国際化に特化した全学的な評価について、いずれか該当する方を選んでください。

☐	①国際化に特化した全学的な評価を行っている。⇒ 次の質問【問10-2】も回答してください。
☐	②上記のような評価は行っていない。

【問10-2】国際化に特化した全学的な評価の手法で、貴学が実施しているものすべてにチェックを入れてください。

国際化に特化した評価の手法	実施しているもの
① 自大学のニーズに応じて独自に実施する自己点検・分析で、他大学との比較は含まない	☐
② 国内の他大学との比較を通した自己点検・分析	☐
③ 海外の大学との比較を通した自己点検・分析	☐
④ 国内の他大学と協働し、相互評価・情報共有を図る評価	☐
⑤ 海外の大学と協働し、相互評価・情報共有を図る評価	☐
⑥ 外部評価	☐
⑦ 海外の機関による認証あるいはサーティフィケートなどが授与される評価	☐

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する



質問11

貴学には国際化に関する諮問委員会（アドバイザリー・ボード）がありますか。以下の選択肢から当てはまるもの一つを選んでください。

選択項目
-- 選択してください --
-- 選択してください --
1. 学外構成員による国際化諮問委員会（アドバイザリー・ボード）がある。
2. 学内構成員による国際化諮問委員会（アドバイザリー・ボード）がある。
3. 学外と学内両方の構成員による国際化諮問委員会（アドバイザリー・ボード）がある。
4. 国際化諮問委員会（アドバイザリー・ボード）がない。

途中保存する

第 二 部

第二部は、貴学における国際化の現況について、ご回答者の主観で評価しご記入ください。
ご回答は貴学の国際化全般を把握されている方をお願いいたします。各設問は、次の5段階で評価してください。

各設問は、次の5段階で評価してください。

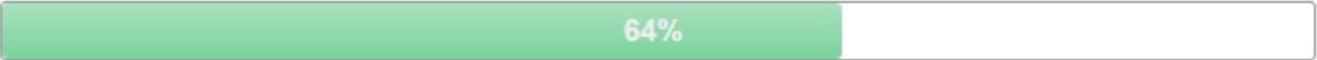
- 5 強く思う
- 4 そう思う
- 3 どちらともいえない
- 2 あまりそう思わない
- 1 まったくそう思わない

ご回答者の役職名をご記入ください。

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する



質問1

教育の国際化に関することについて当てはまるものを選んでください。

	強く そう 思う	そう 思う	どちら とも いえ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い
① 交換留学プログラム（海外の協定大学での勉学）の量と質は、学生の需要に応えられている	☐	☐	☐	☐	☐
② 短期留学プログラム（語学研修や異文化研修）の量と質は、学生の需要に応えられている	☐	☐	☐	☐	☐
③ 日本語教育の量と質は、留学生の需要に応えられている	☐	☐	☐	☐	☐
④ 英語による授業科目の質と量は、学生の需要に応えられている	☐	☐	☐	☐	☐
⑤ 外国人留学生が増え、学生の人的構成の多様化が進んでいる	☐	☐	☐	☐	☐

<< 第二部表紙へ

次の質問へ >>

途中保存する



質問2

国際化関連の学生支援について当てはまるものを選んでください。

	強く そう 思う	そう 思う	ど ち ら と も い え ない	あ ま り そ う 思 わ ない	ま っ た く そ う 思 わ ない
① 外国人留学生に対する勉学支援は、適切に提供されている	☐	☐	☐	☐	☐
② 外国人留学生に対する生活支援（経済的支援を含む）は、適切に提供されている	☐	☐	☐	☐	☐
③ 外国人留学生に対する精神的支援は、適切に提供されている	☐	☐	☐	☐	☐
④ 外国人留学生と地域住民との交流・共生に対する支援は、適切に提供されている	☐	☐	☐	☐	☐
⑤ 外国人留学生に対する就職支援は、適切に提供されている	☐	☐	☐	☐	☐
⑥ 大学の情報は複数の言語で提供され、在学する外国人留学生と日本留学希望者の需要に応えられている	☐	☐	☐	☐	☐

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する

質問3

研究の国際化に関することについて当てはまるものを選んでください。

	強く そう 思う	そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い
① 教員・研究者に対する英語による論文執筆のための支援（翻訳・校閲支援等）は、適切に提供されている	☐	☐	☐	☐	☐
② 大学院生に対する海外の学会での発表や出版の支援（旅費・校閲費支援等）は、適切に提供されている	☐	☐	☐	☐	☐
③ 教員・研究者に対する海外の研究資金応募のための支援は、適切に提供されている	☐	☐	☐	☐	☐
④ 海外から客員・訪問研究者を受入れるための支援は、適切に提供されている	☐	☐	☐	☐	☐
⑤ 教員・研究者が海外の大学に客員・訪問研究者として派遣される制度があり、その機会は適切に提供されている	☐	☐	☐	☐	☐

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する



質問4

教職員の国際化に関することについて当てはまるものを選んでください。

	強く そう 思う	そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い
① 教員の昇進やテニユア（終身在職権）取得にあたって、海外での就労経験や教育・研究活動は適切に考慮されている	☐	☐	☐	☐	☐
② 外国籍（出身）教員・研究者が増え、教員・研究者の人的構成の多様化が進んでいる	☐	☐	☐	☐	☐
③ 外国籍（出身）職員が増え、職員構成の多様化が進んでいる	☐	☐	☐	☐	☐
④ 大学の情報は複数の言語で提供され、外国人教職員と研究者の需要に応えられている	☐	☐	☐	☐	☐

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する

質問5

国際化関連の管理運営（マネジメント）について当てはまるものを選んでください。

	強く そう 思う	そう 思う	どちら とも いえ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い
① 国際化のための戦略を設定しており、それに基づいて、国際化を推進している	☐	☐	☐	☐	☐
② 国際化のための予算が確保され、適切に配分されている	☐	☐	☐	☐	☐
③ 国際化のための人的資源が確保され、適切に配分（配置）されている	☐	☐	☐	☐	☐
④ 国際化の達成度を測定するための方法を設定し、それに基づいて評価を行っている	☐	☐	☐	☐	☐
⑤ 外国人留学生の在籍管理は適切に行われている	☐	☐	☐	☐	☐

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する



質問6

国際化関連のガバナンス・リーダーシップに関することについて当てはまるものを選んでください。

	強く そう 思う	そう 思う	ど ち ら と も い え な い	あ ま り そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い
① 学長のリーダーシップの下、執行部が中心となって国際化の方針を決定し、それを実行している	☐	☐	☐	☐	☐
② 国際化の中長期計画や戦略に関する意思決定の過程は、明らかにされている	☐	☐	☐	☐	☐
③ 国際化への取り組みの責任の所在は、大学本部と各学部（部局）で、それぞれ明確である	☐	☐	☐	☐	☐
④ 海外の大学と新たに協定を締結するための意思決定と過程は明らかにされている	☐	☐	☐	☐	☐
⑤ 海外の既存協定校との協定継続、または協定見直しの意思決定と過程は明らかにされている	☐	☐	☐	☐	☐
	☐	☐	☐	☐	☐

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する

第三部

第三部は、貴学における全学的な国際化の現状について、ご回答者の主観で評価し、ご記入ください。
ご回答は貴学の国際化全般を把握されている方をお願いいたします。

ご回答者の役職名をご記入ください。

大学の使命は教育・研究・社会貢献といわれております。さらに、近年は社会の変化に対応するため、大学機能の多様化・高度化・複雑化に伴う管理運営も大学にとって重要な課題となっております。これらはいずれも必要不可欠な機能ですが、各大学が置かれている状況によって、その重要度には差があると考えられます。また、重要度は比較する視点（目的）によっても違いがあると考えられます。

そこで、第三部では全学的な国際化を推進する際に重視する３つの点のから、貴学の現状を踏まえて、国際化に関わる教育、学生支援、研究、教職員、管理運営（マネジメント）、ガバナンス・リーダーシップがどの程度重要と思われるのか、を評価していただきます。

全学的な国際化を推進する際に重視する３つの点(大学の社会的責任・大学の持続的成長・大学の個性の発揮)は、ここでは次のようなことを意味するものとします。

大学の社会的責任：	教育研究機関として、大学が本来有する社会的使命や公共的役割を全うすること。 質の保証。
大学の持続的成長：	大学を取り巻く環境が厳しさを増す中で、大学が自身の力で生き残っていくこと。 自立的な経営主体としての存続。。
大学の個性の発揮：	国際競争力のある卓越した教育研究や地域に密着した人材育成等、それぞれの大学が有する独自の強みを活かすこと。 存在価値の明確化。

代替的手段(教育の国際化、国際化関連の学生支援、研究の国際化、教職員の国際化、国際化関連の管理運営（マネジメント）、ガバナンス・リーダーシップ)がどのようなことを意味しているのかについては、第二部の問１から問６の設問がそれぞれの内容を説明するものとなっています。例えば、教育の国際化の場合は「①交換留学先（海外の協定大学）の量と質は、学生の需要に応えられている」「②短期留学プログラム（語学研修や、異文化研修）の量と質は、学生の需要に応えられている」「③日本語教育の量と質は、留学生の需要に応えられている」「④英語による授業科目の質と量は、学生の需要に応えられている」といったことが具体的な課題と考えられます。ご回答の際に、参照していただければ幸いです。

なお、第三部は、オペレーションズ・リサーチなどの分野で開発されているAHP（Analytic Hierarchy Process、階層分析法）を用いたアンケートです。 AHPでは意思決定の問題を下図のように最終目標(全学的な国際化の推進)、重視する点（全学的な国際化を推進する際に重視する点）、代替手段の階層的な関係と捉えます。この階層構造に基づいて、最終目標からみた重視する点の重要度（ウェイト）、重視する点からみた代替手段の重要度(ウェイト)を一对比較（２つの項目を比較）、または絶対評価によって求め、それらを総合化します。このプロセスによって、貴学は全学的な国際化の推進においてどの代替手段がどれくらい重要と捉えられているのかを総合的に評価することができます。



<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する



■ はじめに、全学的な国際化を推進する際に重視する点の重要度（ウェイト）を一对比較（2つの項目を比較）することによって決めます。

質問1

貴学では、全学的な国際化の推進という目標において、3つの重視する点（大学の社会的責任、大学の持続的成長、大学の個性の発揮）は、どの程度重要だと思われますか。
3つの重視する点を一对比較（2つの項目を比較）することで重要度を決めてください。記入例を参考にして、回答欄のあてはまる箇所に、それぞれ一つだけチェックを入れてください。

※記入例は、左側の「△△△」が、右側の「▲▲▲」に比べて「左の項目がかなり重要」とした回答例です。

	左の項目が絶対に重要	左の項目がかなり重要	左の項目が重要	左の項目がやや重要	両方同じくらい重要	右の項目がやや重要	右の項目が重要	右の項目がかなり重要	右の項目が絶対に重要	
(記入例) △△△	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	▲▲▲
1: 大学の社会的責任	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	大学の持続的成長
2: 大学の社会的責任	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	大学の個性の発揮
3: 大学の持続的成長	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	大学の個性の発揮

<< 第三部表紙へ

次の質問へ >>

途中保存する



- 次に、全学的な国際化を推進する際に重視する点（大学の社会的責任、大学の持続的成長、大学の個性の発揮）から、国際化を推進する際の代替的手段の重要度を評価します。

質問2

全学的な国際化の推進を貴学の「**社会的責任**」の視点から見たとき、各手段はどの程度重要だと思いますか。

いずれの機能も重要という見方もあるとは思いますが、貴学の状況に応じて、ここでは「**社会的責任**」を意識した評価をお願いいたします。

回答欄のあてはまる箇所に、それぞれ一つだけチェックを入れてください。

例えば、以下の1. については、貴学の「**社会的責任**」の視点から見て、「**教育の国際化**」の重要度を評価してください。

	とても重要	重要	普通	あまり重要ではない	まったく重要ではない
1: 教育の国際化	☐	☐	☐	☐	☐
2: 国際化関連の学生支援	☐	☐	☐	☐	☐
3: 研究の国際化	☐	☐	☐	☐	☐
4: 教職員の国際化	☐	☐	☐	☐	☐
5: 国際化関連の管理運営	☐	☐	☐	☐	☐
6: 国際化関連のガバナンス・リーダーシップ	☐	☐	☐	☐	☐

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する



質問3

全学的な国際化の推進を貴学の「**持続的成長**」の視点から見たとき、各手段はどの程度重要だと思いますか。

いずれの手段も重要という見方もあるとは思いますが、貴学の状況に応じて、ここでは「**持続的成長**」を意識した評価をお願いいたします。

回答欄のあてはまる箇所に、それぞれ一つだけチェックを入れてください。

例えば、以下の1. については、貴学の「**持続的成長**」の視点から見て、「**教育の国際化**」の重要度を評価してください。

	とても重要	重要	普通	あまり重要ではない	まったく重要ではない
1: 教育の国際化	☐	☐	☐	☐	☐
2: 国際化関連の学生支援	☐	☐	☐	☐	☐
3: 研究の国際化	☐	☐	☐	☐	☐
4: 教職員の国際化	☐	☐	☐	☐	☐
5: 国際化関連の管理運営	☐	☐	☐	☐	☐
6: 国際化関連のガバナンス・リーダーシップ	☐	☐	☐	☐	☐

<< 前の質問へ

次の質問へ >>

途中保存する